

YAZAKIと森林づくり

実施中

2006年～取り組み開始
2023年～事業開始



QR

～自然との共生・地域循環型社会の実現～
地域・自然と共生するビジネスモデルを構築し、
持続可能な企業経営のもと森林保全に永続的に貢献する

背景・課題

1 なぜ自動車部品メーカーが林業を？

解決すべき課題とニーズ

課題

労働環境の変化、自動車事業の変化

顧客のニーズ

製造コスト低減、製造リードタイム低減、
新たなビジネスモデルの提案

行うべきミッション

経営リソースの最適配分

- ・ 直接人員・間接人員の小人化による
経費削減への貢献
- ・ 小人化により得られたリソースの
再配分として、新規事業の創出

2 高知県梼原町との歩み

地域とともに取り組む、森林資源の地域循環

高知県にある梼原町は、「先人の知恵に学び、自然との共生と循環型社会の実現」という基本理念を軸に、
森林との真の共生をめざし、未来の子どもたちに大切な地球環境を残す“森林の再生”に取り組んでいます

1991年	四国部品(株) 梼原製造所 開設
1997年	海外でのものづくり進行 → 国内生産拠点の生産数激減・閉鎖が進む
2006年	梼原町木質バイオマス地域循環利用事業プロジェクト 発足
2008年	ゆすはらペレット(株) ペレット工場 稼働開始
2019年	森林管理制度 開始 森林再生プロジェクト 開始
2023年	四国部品(株) 森林づくり(造林)事業 開始

梼原町 概要

四国カルストに抱かれた自然豊かな小さな町

- ・ 面積: 23,645ha(91%が森林)
- ・ 人口: 3,307人(高齢化率46%)
- ・ 世帯数: 1,513世帯
- ・ 標高: 1,455m

(総務省R2国勢調査)



YAZAKIと森林づくり

背景・課題

3 企業が森林を利活用する意義

森林の有する多面的価値

地球環境保全、文化保全、物質生産、
土壌保全、水源涵養、生物多様性保全
保健・レクリエーション、文化



企業が森のプログラムを活用する意義

- ・ 地域課題解決をつうじた社会への貢献
- ・ 心身の健やかさを醸成し組織へ良い影響
- ・ 自然資本に対する持続的な取り組み

4 梶原町との協業から見えてきた課題

社会課題

- ・ 地球温暖化(CO2削減)
- ・ 林業従事者の減少/高齢化
- ・ 土砂崩れ/自然災害
- ・ 生物多様性保全

地域課題(梶原町)

- ・ 担い手(林業従事者)不足
- ・ 作業の安全/省力/効率化
- ・ 資材費の高騰
- ・ 木材価値の向上

経営課題(矢崎)

- ・ 既存事業の将来性
- ・ 環境変化への適応
- ・ カーボンニュートラルへの貢献
- ・ 100年に1度の大変革

課題への解決・特徴

1 取り組み意義

矢崎グループで林業(造林事業)に参入し、各ステークホルダーの課題を解決し、
持続可能な森林管理および矢崎グループの事業永続に寄与

実現したいこと

- 1) 造林作業の安全面向上、省人・省力化による3K林業からの脱却
- 2) 自動車事業と林業の垣根を超える新たな価値創出・新規事業創出
- 3) サーキュラーエコノミーの実現

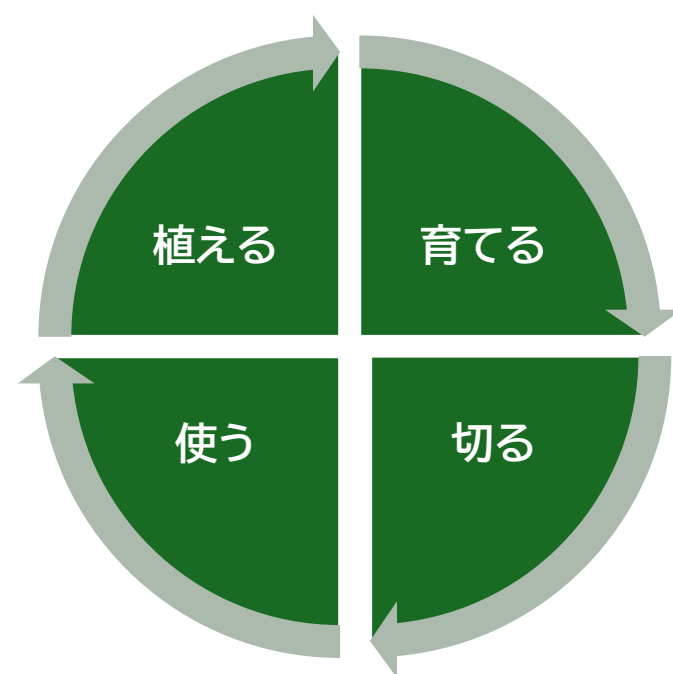
YAZAKIと森林づくり

課題への解決・特徴

2 矢崎グループだからできること

造林における重点課題

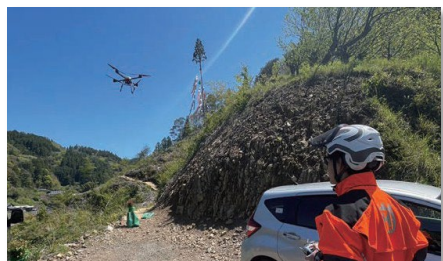
- 1 作業の安全/省力/効率化**
 - ・再造林が進まない主な要因は、費用負担の大きさ
 - ・作業の過酷さの一因は、労働力不足
- 2 資材費低減/付加価値創出**
 - ・原価低減/環境配慮にアプローチ
- 3 木材価値の向上**
 - ・木材価格の低迷、山離れが深刻化
 - ・森林所有者等が林業経営に関心を持ってない
 - ・主伐や再造林の投資メリットがない



森林サイクル

ソリューション案

造林作業の付加価値創出



造林プロセスの見直し
(作業効率化、生産性向上)

新たな木材価値・需要創出



自動車部品製造
BtoC商品の企画・開発

造林事業



施工面積拡大
多拠点への展開

労働環境改善



林業従事者専用車の開発
(3K 改善、安心・安全・快適)

保護ネット研究開発



単木保護ネットの内製化
作業効率向上・コスト低減

高知県梣原町をメイン拠点とし、
構築した新たな林業モデルの拡大を目指す

